ティーチング・ポートフォリオ

山村学園短期大学子ども学科准教授　室井　佑美

１．教育の責任

2019年度からの担当科目は（表１）の通りである。

科目名	開講年度	学期	対象学年	種別	受講者数	備考
保育原理	2019 2020 2021	前期 前期 前期	１年生	講義	70名 74名 67名	１クラス
保育内容 人間関係	2019 2020 2021	前期 前期 前期	１年生	演習	35/35名 36/37名 33/34名	２クラス
実習指導Ⅰ	2019 2020 2021	前期 前期 前期	１年生	演習	70名 74名 67名	４クラス ※教員４名
実習指導Ⅲ	2019 2020 2021	前期 前後期 前期	２年生	演習	71名 69名 67名	４クラス ※教員５名
健康と 人間関係の 指導法	2019 2020 2021	後期 後期 後期	１年生	演習	70名 74名 67名	２クラス ※教員２名
子育て支援	2019 2020 2021	後期 後期 後期	１年生	演習	35/35名 36/37名 33/34名	２クラス
実習指導Ⅱ	2019 2020 2021	後期 後期 後期	１年生	演習	70名 74名 67名	４クラス ※教員５名
保育内容総論	2021	後期	２年生	演習	68名	1-2ｸﾗｽ※教員２名
保育実習Ⅰ	2019 2020 2021	集中	１年生	実習	70名 74名 67名	
※保育内容Ｄ	2019	前期	２年生	演習	71名	２クラス※教員３名
※保育入門	2019 2020	前期 後期	山村国際高校３年	講義 演習	17名 20名	１クラス

※相談援助	2019	後期	２年生	演習	36/35 名	2 クラス

※は現在、科目担当教員ではない。

（２）担当する学内分掌

2019 年度からの所属する委員会及びワーキンググループは（表２）の通りである。

委員会/ﾜｰｷﾝｸﾞｸﾞﾙｰﾌﾟ	年度	役職	構成	職務内容
教務・ＦＤ委員会	2019 2020 2021	委員長	教員 4 名 事務 1 名	・教育課程の編成、実施、評価 ・成績管理、学籍管理 ・資格、免許手続き ・授業運営体制の整備 ・ＦＤ活動
実習委員会	2019 2020 2021	委員	教員 5 名 事務 1 名	・保育実習Ｉの調整、管理 ・実習体制の編成、実施、評価 ・実習報告会の企画運営 ・保育体験等の企画運営
学生支援委員会	2019 2020 2021	委員	教員 4 名 事務 1 名 ｶｳﾝｾﾗｰ 1 名	・学生動向の把握 ・学生会の運営支援 ・学内行事等の企画運営 ・学生指導（全体、個別） ・カウンセリング業務 ・保護者懇談会等企画運営
Ｔjup ワーキンググループ	2019	グループ長	教員 4 名 事務 1 名	・Ｔｊｕｐ会議参加における情報収集、共有 ・単位互換制度の対応 ・学生交流におけるボランティア学生の派遣
フィンランドワーキンググループ	2020 2021	グループ長	教員 4 名．事務 1 名	・外部関係団体との協議、企画運営・学内研究、・学内環境の整備

（表２）担当学内分掌詳細一覧

２．教育の理念

教育者となって 14 年が経過した。私自身が教育を学生に展開していく際に重んじている信念は２点、「自己研鑽に励み成長し続けようとすること」、「自らのストレングスを自覚し、様々な状況を乗り越えられる精神を持つこと」である。

自ら学び続けることについて、私は、保育者を目指す者としてだけではなく、人として生涯に渡って「知る」ことに対して魅力を感じて知識を積み続けてほしいと考えている。今後、生きていく、働いていくなかで生じる状況を回避することなく、自らの持てる知識を発揮して行動に移せるような、「学び」を前向きに捉えられるように教育を施していくことが理念にある。

また、自ら持つ力を自覚することは、自らを冷静に見つめ洞察することにもつながる。今ある状況を捉えることができれば、何を活用すればよいか、誰に相談すべきか、どのように向かっていけばよいのか、教育で得てきた知識や経験を総合的に活用できるようになる。「学び」を自らの力につなぎ、向き合える精神力が培えるように教育の中で養っていくことが理念である。

学生自身が資格や免許を取得するうえでの学びに加えて、現代の社会状況を反映する子どもや保護者、地域の子育て家庭に向き合い、健やかな育ちと最善の利益を生み出す支援を行うために学ぶことを生涯意識してほしいと考えている。

３．教育の方法

（１）保育内容人間関係（授業配布資料一部あり）

保育士及び幼稚園教諭養成課程で必修科目である本科目は、１年生の前期に位置付けられている。保育の内容である５領域の１つを担い、他の領域と共に、１年生の学び始めの段階において、重要な科目である。

そこで、2021 年度は子どもの発達に基づく自我の育ち、社会性の育ち、感情の育ちを基礎にしながら、保育者としての求められる関わり演習を交えて授業展開をした。具体的には、①ゲームを通した人とのコミュニケーションの体験、②ICT を活用したイベントにおける協同活動の体験、③個別の事例検討などを実践した。

その際、授業展開において留意したことは、いずれの実践も学生へ分かりやすい言葉を選ぶ、体験をする、体験後は個別で振り返る時間を設ける、教員側の学生への意図を伝えるなど、人と直接関わることを意識して学び

が得られるようにしたことである。

（２）保育原理（授業配布資料一部あり）

保育士養成課程では必修科目である。保育の根本原理を、保育の意義や目的、保育に関する法令及び制度、保育所保育指針における保育の基本、保育の思想と歴史的変遷、保育の現状と課題について、授業を展開した。

そこで、2021 年度はパワーポイントを授業資料として事前に LNS に挙げ、当日はその説明を行い、復習時間も含めて独自書式ノートにノートテイキングをする形で進め、知識の定着を目指した。レポート課題については、「今話題の保育現場探し」「自分で保育現場を作ろう」というテーマにし、学生の興味や関心を始点に主体的に探し学べるように工夫をした。

その際、授業展開において留意したことは、いずれの実践も学生に学びの意味を明確に伝える、法制度から得られる知識を現場の実際からよりイメージしやすい状況を作り出す、学生のノートにリアクションをするなど、保育にまつわる概説を自分自身の経験に落とし込み、意識して学びが得られるようにした。

（３）子育て支援（授業配布資料）

保育士養成課程で必修科目である本科目は、１年生の後期に位置付けられている。保護者支援と地域の子育て家庭への支援と両面を持ち、前期の学びを経た学生が、保育・幼児教育の子ども視点から保護者に向けての視点となるよう、１年生の学びのステップにおいて、一歩視野を広げていく科目となっている。

そこで、2020 年度はソーシャルワークの基本的知識、概要を基礎にしながら、保育者としての求められる保護者との関わり、子どもを介した保護者との関わりを演習形式にしながら授業展開をした。具体的には、①２人組、３人組、４人組でのワークによるコミュニケーションの体験、②ロールプレイを通した面接技法の修得と客観的観察力の醸成、③グループワークでの事例検討とギャラリーウォークなどを実践した。

その際、授業展開において留意したことは、いずれの実践も学生へ分かりやすい言葉を選び、自らの経験と知識が結びつくようにする、体験をした後は個別で振り返り客観的に自己の行動を振り返る時間を設ける、個人が振り返った内容を教員が各自にフィードバックするなど、人と直接関わることを意識して学びが得られるようにしたことである。

４．教育の成果、評価

2020年度定期試験前に学生に対して授業アンケートを実施した。問４：総合評価、問１：学生自身の取り組み、問２：授業の内容、問３：授業方法はそれぞれ、（表２）のとおりである。単独で担当している科目は、保育原理、保育内容人間関係、子育て支援の３科目であることから、その３科目を中心に考察を進める。なお、保育原理に関しては単独で担当した2019年度の数値と比較している。

	保育原理			保育内容人間関係			子育て支援		
	2020	2019	年度差	2020	2019	年度差	2020	2019	年度差
問４	4.36	4.63	-0.27	4.41	4.65	-0.24	4.22	4.66	-0.44
問１	4.37	4.41	-0.04	4.42	4.45	-0.03	4.12	4.42	-0.3
問２	4.31	4.47	-0.16	4.46	4.46	0	4.14	4.52	-0.38
問３	4.59	4.78	-0.19	4.65	4.76	-0.11	4.23	4.79	-0.56

（表２）　2020年度の前期授業アンケートの結果一覧

（１）保育原理

保育原理に関して、学生からの総合評価では「4.36」との数値が出た。2019年度は「4.63」であったため0.27ポイント下降した。自由記述からオンデマンド型授業と面接授業での一長一短が記述されており、面接授業での配布資料に対する指摘が目立った。一方で事例を交えて分かりやすいなどの前向きな記述もあった。保育原理の教授内容の特性上、法律や概念理解が多く、難解であることを受け、実際の事例と法律や制度の実際をつなぎ合わせて説明していったことが、学生自身の自らの経験やイメージとをつなぎあわせた学びをしていることが分かった。一方で、「スライドのマーカーが見えづらい」「印刷資料がモノクロで見づらい」「スライド１枚への情報量が多い」など物的環境や情報環境に関する意見もあった。学生一人ひとりの、本学へ入学に至るまでの学習経験や学習する姿勢によって、学習する姿や態度は大きく異なり、学生間で乖離は生じている。授業環境のハード面には限界があるものの、ソフト面に対する一層の工夫が必要であると考える。

（２）保育内容人間関係

保育内容人間関係に関しては、2019年度子ども学科より始まった新設科

目である。昨年度の総合評価は 4.65 に対し、今年度は 4.41 と 0.24 ポイント下降した。自由記述からオンデマンド型授業と面接授業での一長一短が記述されており、面接授業での配布資料に対する指摘が目立った。一方で事例を交えて分かりやすいなどの前向きな記述もあった。オンデマンド型授業の際は知識を優位に、面接授業によるものではゲームや製作などの協同も感じられるような活動を増やしたが、社会的距離を保ちつつ、人との関わりについて心の距離を詰めていくことへの難しさが課題となった。今後、LMS を活用することも視野に入れ、双方向での対話を活発にして振り返りがスムーズな方法を模索していきたい。

（２）子育て支援

4.22	4.66	-0.44

子育て支援に関しては、2019 年度子ども学科より始まった新設科目である。昨年度の総合評価は 4.66 に対し、今年度は 4.22 と 0.24 ポイント下降した。他の評価項目においても、0.3、0.38、0.56 と他科目と比較しても下降するポイントが大きかった。

「子育て支援の実際」を見られないこと、グループワークも制限がある中で実施することなど、非常に制約が多かった。学生への教授内容、授業の展開方法、授業時間、回数等すべてが教員としての教育の質を保持できていたかと思うと疑問が残るが、グループワークで行った事例検討等は、主体的な対話的な深い学びをするきっかけになり、１年生後期としては相応の学びができたと考えるため、フィードバックなどを丁寧に行いたいと思う。また、今後、LMS を活用することも視野に入れ、双方向での対話を活発にして振り返りがスムーズな方法を模索していきたい。

５．教育の改善に向けた今後の目標

（１）保育原理

短期的目標	・第一に、保育・幼児教育の関する法制度は日々改訂が行われているため、教員として動向を把握し学生にタイムリーに提示できることである。 ・第二に、日本の保育・幼児教育に加え、海外の保育・幼児教育により関心が向くような教授内容を考えていけるよう資料の提示や視聴覚教材を準備することである。

	・第三に、外部講師の活用を取り入れていくことである。保育者として保育の根本を伝えていく、歴史的変遷、法制度の概要を伝えていくことに加え、今を映すタイムリーな保育・幼児教育の動向について、先駆的な事例を実践している人から学べるようにしたい。
長期的目標	保育・幼児教育の動向は日々一刻と変化を辿っているが、同時に子ども・保護者、取り巻く社会の環境も社会情勢の影響を受けながら変化をしている。保育原理は先人たちが築き上げてきた知の財産を教授することができる科目であるが、保育学としてまだまだ研究しきれていない学問の一部でもある。保育士養成の根本科目としての位置付けの重要性を認識しながらも、「研究」という視点を持ち、これから求められていく保育・幼児教育の動向を追い求めていけるよう、教育者自ら学び、研究成果を示していくことが目標である。

（２）保育内容人間関係

短期的目標	・第一に、人間関係を発達心理学、社会学、民俗学など多様な学問領域から把握し、学生に提示できることである。 ・第二に、日本人の民族性や文化を大切にしながらも、多文化共生社会のなかで、多様性のある保育・幼児教育を受け止めていけるよう、関心が向くような教授内容や資料の提示、視聴覚教材を準備することである。 ・第三に、保育現場での実際を定期的な観察実習などを活用して保育内容人間関係の理解を進めていくことである。教員として保育内容の根本や人間関係で育むものを伝えていくことに加え、子どもの実際をタイムリーに観察し、捉えたものから学びにつなげられるようにしたい。 ・第四に、新型コロナウィルス感染症の世界規模での流行と蔓延もあり、新しい生活様式での保育が求められ現場が試行錯誤で実践をしている。人とのかかわりが大切な時期に、新しい形で質の高い保育・幼児教育は何ができるのか、何を工夫しているのかを考えていく。
長期的目標	保育所保育指針や幼稚園教育要領、幼保連携型認定こど

	も園教育・保育要領は定期的に改定がなされている。保育・幼児教育として子どもを育むための根本的要素は変わらないものの、少しずつ社会の状況に合わせた人と人の関わりあいも求められてくる。加えて、多様性を認めていく時代にもなっていくことから、保育者として受容しながらも、何が人との関係性で大切かを自ら選びとっていくことが求められると考える。そこで、保育者としての「筋が通っている」ことを保ちながらも、「変化を受け入れる柔軟性」が持てるような学びが得られるようにすることが目標である。そのために、教育者として「保育現場」から教えられる「子ども」から教えられる視点を忘れず、教育者自ら学び、実情を捉え続けていくことが目標である。

（３）子育て支援

短期的目標	・第一に、現在の子育て家庭を取り巻く状況を把握するため、社会学、家庭心理学、公衆衛生学など多様な学問領域から把握し、学生に提示できることである。 ・第二に、今の現状を的確に捉え、保護者が何に悩みや不安を抱え、どのような方法をそれに立ち向かっているのかまたは周囲からのサポートを受けているのか関心が向くような教授内容や資料の提示、視聴覚教材を準備することである。 ・第三に、子育て支援現場での実際を観察する体験を行い、子育て中の家庭の実際の姿に対して理解を深めることである。教員として保育内容の根本や人間関係で育むものを伝えていくことに加え、子どもの実際をタイムリーに観察し、捉えたものから学びにつなげられるようにしたい。 ・第四に、新型コロナウィルス感染症の世界規模での流行と蔓延もあり、新しい生活様式での子育て支援が求められ現場が試行錯誤で実践をしている。先の見えない不安な世の中で子どもを育てる保護者の不安や負担をそのように減らし、新しい形で子育てをサポートできるのか何ができるのか、何を工夫しているのかを考えていく。
長期的目標	保育所保育指針や幼稚園教育要領、幼保連携型認定こど

	も園教育・保育要領は定期的に改定がなされている。また、日本の制度においても子育て支援に対する具体的な施策は展開され、各自治体でも嗜好を凝らした事業が展開されている。日本の社会的文化も受け入れながらも、周囲の状況が変化しつつあるの中でできる支援、新しい支援の形が求められてくる。加えて、多様性を認めていく時代にもなっていくことから、保育者として子育ての姿を受容しながらも、「何を保護者として育つべきか」「子育ちに何が必要であるか」を自身が洞察できる力が求められると考える。そこで、保育者としての「筋が通っている」ことを保ちながらも、「変化を受け入れる柔軟性」が持てるような学びが得られるようにすることが目標である。そのために、教育者として「保育現場」から教えられる「子どもや保護者」から教えられる視点を忘れず、教育者自ら学び、実情を捉え続けていくことが目標である。

６．エビデンス一覧

（１）各科目シラバス

①保育原理、②保育内容人間関係、③子育て支援

（２）授業時配布プリント(一部)

①保育原理、②保育内容人間関係、③子育て支援

（３）試験問題

①筆記試験（保育原理）②レポート試験（保育内容人間関係、子育て支援）

（４）成績集計結果（保育原理、保育内容人間関係、子育て支援）

以上